

# 【令和3年～令和5年】 近年のフォークリフトによる災害発生の特徴と問題点

安全管理士 堀野 弘志

フォークリフトによる過去3年の事故の型別・業種別死亡災害発生状況（令和3年～5年）

業種 事故の型	年齢 区分	製造業			建設業			陸運業			港湾荷役業			商業			その他			計			3年 合計	
		令和			令和			令和			令和			令和			令和							
		3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5		
墜落・転落	50歳以上	2						3	1					1	1	1			3	4	2	9	13	
	50歳未満	1		1										2					3	0	1	4		
転倒	50歳以上			2		1								1		1		1	1	2	3	6	12	
	50歳未満			1		1				1				1			2		0	4	2	6		
激突	50歳以上		1						1					1					0	3	0	3	4	
	50歳未満								1										0	1	0	1		
飛来・落下	50歳以上		1	1						1				2		1			2	1	3	6	8	
	50歳未満		1			1													0	2	0	2		
崩壊・倒壊	50歳以上							1	1										1	1	0	2	3	
	50歳未満					1													1	0	0	1		
激突され	50歳以上	1	1	2		2		1						2			2	1	2	7	3	12	17	
	50歳未満		1	1	1					1				1					2	1	2	5		
はさまれ・巻き込まれ	50歳以上	1	2					1	2	1	1		1	1			1		4	5	2	11	15	
	50歳未満		1	1						1							1		0	2	2	4		
交通事故	50歳以上														1				0	0	1	1	5	
	50歳未満	2	1				1												2	1	1	4		
合計	50歳以上	4	5	5	0	3	0	3	7	3	1	0	1	3	5	3	2	3	2	13	23	14	50	77
	50歳未満	3	4	4	2	2	1	0	1	3	0	0	0	3	1	0	0	3	0	8	11	8	27	
3年合計		25			8			17			2			15			10			77				

（資料：厚生労働省安全衛生部）

## 1 はじめに

令和5年の労働災害による死亡者数のうちフォークリフトが起因となった事故の死亡者数は22人で、前年の34人から12人の大幅減少となりました。

業種別では、対前年比で陸運業は2人減少、製造業は増減なし、建設業は4人減少、商業は3人減少となりました。

また、被災者の年齢区分別では、50歳未満が対前年3人減少の8人、50歳以上は9人減少の14人となり、結果として高年齢労働者の割合は64%と4ポイントの減少となっています。

## 2 近年の死亡災害の特徴（全産業）

過去3年間ににおけるフォークリフトが起因となった死亡者数は、令和3年21人、令和4年34人、令和5年22人と増減を繰り返しています（図1）。

業種別には過去3年間の合計で見ると、製造業が最多の25人(32%)、次いで陸運業が17人(22%)、商業15人(19%)、建設業8人(10%)の順となっています。

事故の型別では、「激突され」によるものが17人(22%)と最も多く、「はさまれ・巻き込まれ」が15人(19%)、「墜落・転落」が13人(17%)、「転倒」が12人(16%)、「飛来・落下」が8人(10%)の順となっています（図2）。

また、「はさまれ・巻き込まれ」、「激突され」については、被災者の高年齢労働者の割合が高いことが特徴となっています。接近するフォークリフトに気づき難く、素早く回避できないなどが原因と考えられます。

## 3 令和5年死亡災害の事故の型別問題点（全産業22人）

### ① 激突され（5人）

- ・トラック上でフレコンの吊りベルトを

図1 業種別フォークリフト死亡災害の推移（H26～R05）

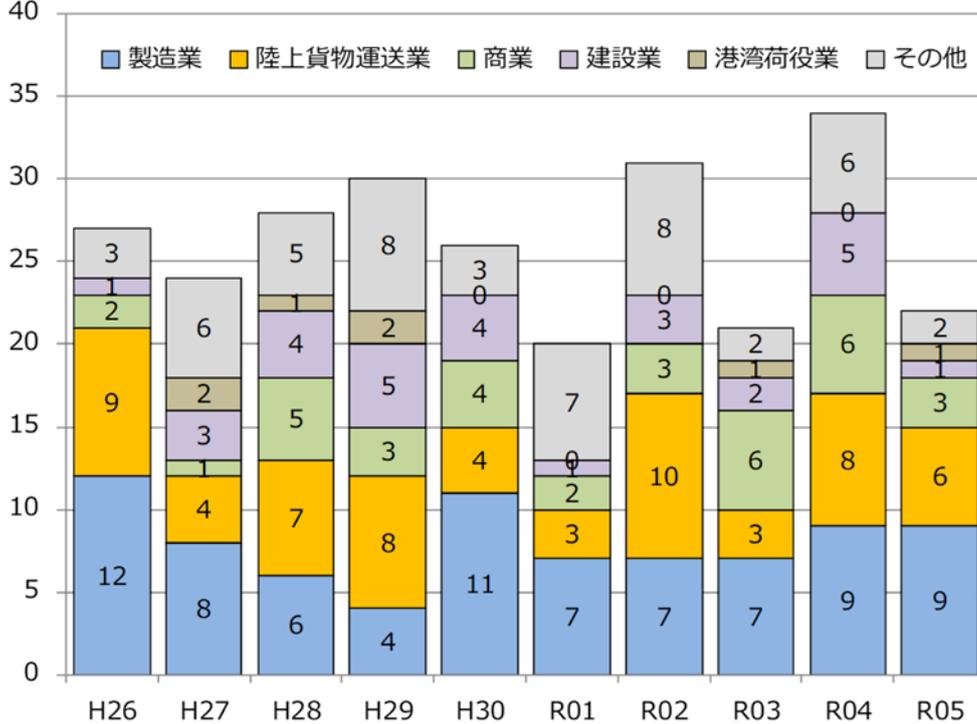
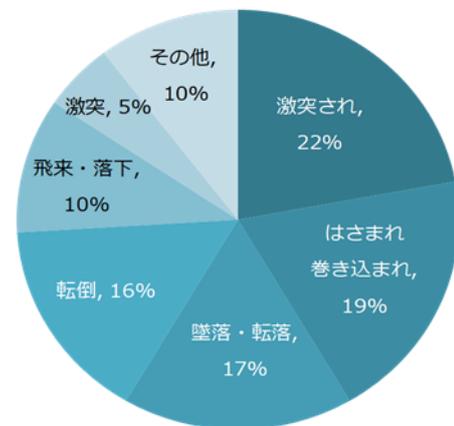


図2 事故の型別フォークリフト死亡災害

R03～R05



フォークにかける作業をしていた被災者が一旦事務所に行き作業場に戻る際に方向転換中のフォークリフトにひかれた。

- トラック運転者が立入禁止区域内にある雨天用養生材を取りに行き、トラックに戻る際に後進中のフォークリフトに激突された。
- フォークリフトの走行エリアに立ち入った被災者が850kgのフレコンを吊り下げて走行中のフォークリフトに後方から激突され転倒しさらにひかれた。
- 工場内でピッキング作業中の被災者が、後方に停車中のフォークリフトが突然前進したため激突された。（フォークリフトは駐車ブレーキはかけていたが走行レバーが前進に入った状態で、運転者が床上からエンジンをかけた）
- ベルトコンベヤーを移動させるためコンベヤーの上端部をフォークリフトのマストの横梁に載せて押し出すようにずらそうとしたが横にずれたため、合図中の被災者が咄嗟に駆け寄り抑えようとしたが、コンベヤーが横転して被災者に激突した。

【問題点】

- 接触防止措置不実施
- 立入禁止エリアへの立ち入り

- 危険個所への立入禁止措置不実施
- 用途外使用
- 停車措置の誤り

② 転倒（5人）

- 無資格のフォークリフト運転者が、最大勾配12度の下り坂を回送中、転倒し下敷きとなった。
- 屋外の直線通路を回送中、ハンドルを大きく左に切ったところ、左後輪が用水路に脱輪し転倒、シートベルト未着用の運転者が投げ出されヘッドガードと地面の間に頭部を挟まれた。
- 倉庫内で木材をフォークリフトで荷役中の運転者が、積み荷なしで最大揚高までリフ

トアップした状態で横転し投げ出されヘッドガードと地面の間に挟まれた。

- トラック後方に移動中のフォークリフト運転者が、下り坂でスピードが出ているのに左ハンドルを切ったため横転し胸部をはさまれた。
- 1 t リーチフォークリフトでパレット荷を運搬中の被災者が立った状態で意識を失ったようにふらつき、後方に倒れ落ち、頭部を打ち付けた。

#### 【問題点】

- 無資格者による下り坂での操作ミス
- 急旋回
- リフトアップ状態での操作ミス
- 下り坂でのスピード超過
- 健康管理上の問題

#### ③ はさまれ・巻き込まれ（4人）

- 2段積み上段の型枠をクレーアームを取り付けたフォークリフトで吊り上げようとしたが、型枠が滑り落ち運転席から下車していた運転者が型枠とフォークリフトに頭部を挟まれた。
- トレーラーからコンテナの荷卸し作業中のフォークリフトが後進中に後方にいた被災者が巻き込まれた。
- 被災者はコンテナヤード内で、コンテナ間の60cmの空間でコンテナ扉を封緘する作業を行っていたが、別会社のフォークリフト運転者が被災者に気付かずコンテナの間隔を詰めたためにはさまれた。
- 2 t フォークリフトでトラックから荷卸し中、高さ 2.5m程度の荷をリフトアップした状態で、パーキングブレーキをかけず、下車して荷台の確認をしようとしたところフォークリフトが逸走し荷台とフォークリフトの荷の間にはさまれた。

#### 【問題点】

- 主たる用途以外の使用（吊荷走行）
- 立入禁止措置の不実施
- 安全確認不実施
- 停車措置の不実施

#### ④ 墜落・転落（3人）

- 空パレットを搬送中の1.5 t リーチフォークリフトがプラットホームから下りスロープを後進中、別作業のリーチフォークリフ

トが追走して急接近してきたため、被災者が危険を感じて運転操作を誤り、脱輪し35cm下の地面に落下して頭部がヘッドガードの下敷きとなった。

- フォークリフト上のパレットに乗り倉庫入口約3mの高さにあるパイプにロープで日除け用シートを取り付けようとしていたところバランスを崩し、ロープに首が引っ掛かり宙づりとなった。
- トレーラー荷台上で作業中のリーチフォークリフト運転者がフォークリフトごと地上に転落した。

#### 【問題点】

- 転落の危険個所における安全対策不実施
- 主たる用途以外の使用（高所作業）
- 危険個所での操作ミス

#### ⑤ 飛来・落下（3人）

- 重量1.7 t の空コンテナが運搬中のフォークリフトから落下し清掃作業中の被災者が下敷きとなった。
- トラックに積み込まれていた荷（1枚16kgのパーティクルボード60枚）の積み込み位置をフォークリフトで調整中、荷が崩れトラックの反対側で誘導していた被災者に落下した。フォークの差し込みが不十分であった。
- 豚の頭部を収納したステンレス製のタンクを運搬中、タンクがフォークから外れて落下し、付近にいた被災者に激突した。危険個所への立ち入りが原因。

#### 【問題点】

- 立入禁止措置の不実施
- フォークの差し込み不良
- 安全確認不足

#### ⑥ 交通事故（2人）

- フォークリフトを工事現場で使用するため車庫から移動走行させていたところ、傾斜約7度の下り坂で蛇行し始め横転し、ヘッドガードと地面に胸部を挟まれた。
- 市場に商品納品後、営業所に戻るため市場と隣接する私道を走行中、緩い右カーブでハンドル操作を誤り、右側道路脇の田んぼに転落し下敷きとなった。

#### 【問題点】

- 運転操作ミス

- ・ 走行スピード超過
- ・ シートベルト未装着

#### 4 近年のフォークリフト起因の死傷災害

過去3年間に於けるフォークリフトに起因する死傷者数は、令和3年2,028人、令和4年は2,092人、令和5年は1,989人で対前年比103人の大幅減少となりました。

業種別では、過去3年間の合計で見ると、陸運業が40%で最も多く、製造業31%、商業16%となっています（図3、図4）。陸運業は前年比94人の大幅に減少しましたが、製造業は50人の増加となりました。

事故の型別では、はさまれ・巻き込まれが35%、激突され27%でフォークリフトと人の接触つまり轢かれが最も多くなっています（図5、図6）。

#### 5 フォークリフト安全作業のポイント

- ① 用途外使用（人の昇降、牽引、吊上げ）  
禁止
- ② 無資格運転を絶対にさせない
- ③ 逸走防止措置の徹底
- ④ フォークリフトと人の作業エリアを区分する
- ⑤ 横転注意：リフトアップしたまま走行・旋回しない、傾斜通路を走行しない、シートベルトを着用して投げ出されないようにする
- ⑥ 進行方向（前後左右）への安全確認
- ⑦ 作業開始前点検と整備を徹底

図3 業種別フォークリフト死傷災害の推移（R03～R05）

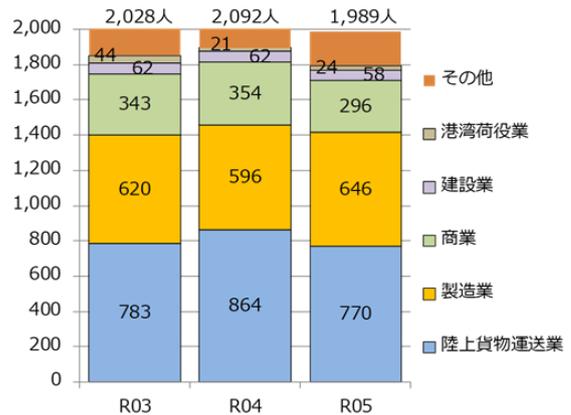


図4 業種別フォークリフト死傷災害の割合（R03～R05）

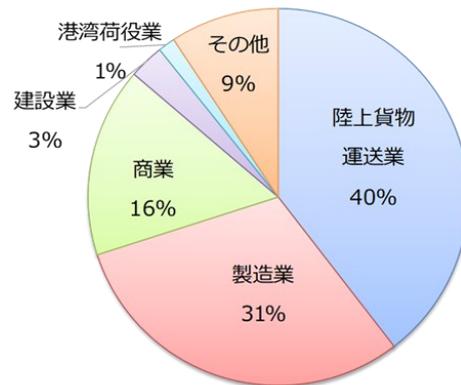


図5 事故の型別フォークリフト死傷災害（R03～R05）

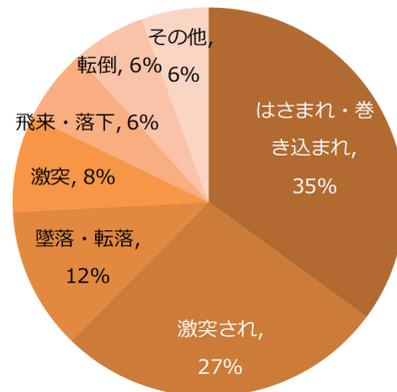


図6 事故の型別フォークリフト死傷者数の推移（全産業：R03～R05）

